

論文審査の結果の要旨

氏名：堀 祐太郎

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：腎細胞癌手術後の慢性腎臓病発症予測について

審査委員：（主査） 教授 大島 猛 史

（副査） 教授 逸見 明 博 教授 後藤田 卓 志

教授 石井 敬 基

高齢化、健康診断や人間ドックの受診率向上や各種画像診断の進歩により早期がんが多数発見されるようになり、腎細胞癌の罹患率は年々上昇している。腎細胞癌の治療は化学療法や放射線治療の有効性がほとんど認められないため外科手術が標準治療であるが、約4割が術後に **chronic kidney disease (CKD)** を発症すると言われ、術後の腎機能障害が総生存率に対する大きな危険因子になっており、それに対する対策は急務であるといえる。本研究は腎細胞癌患者の術後腎機能障害に着目し、有用な予測マーカーの検討を行った論文である。研究手法は日本大学医学部附属板橋病院での腎細胞癌手術例 181 例の後ろ向き研究であり、年齢、性別、糖尿病の有無、蛋白尿の有無、血清クレアチニン値、**eGFR** という観察項目に加え、新規の指標を求めめるために、術式、病理組織診断、**TNM** 分類、術前 CT 画像から算出した術前非癌部体積と予測術後腎体積、さらに、術前および術後 5 年以内の **acute kidney injury (AKI)**、**CKD** の有無も検討した。術後の腎機能低下のリスクについて詳細に統計学的解析を行い、年齢、予測術後腎体積、術後急性腎障害の発症が危険因子としてあげられることを明らかにした。術後新規 **CKD** 発症予測モデルの作成を術後新規 **CKD** 発症の有無による重ロジスティック回帰分析を行い、**AKI**、**eGFR**(84ml/s 未満)、予測術後腎体積 (240ml 未満) の 3 因子の組合せが最も有用であることを示した。ハイリスク症例に対しては早期より腎保護治療を積極的に行うことを提唱した論文である。著者の提唱する新規リスク分類は、今後、腎細胞癌術後の慢性腎臓病発症の危険を考えその対策を立てる上で臨床的にも非常に有用な新知見であるといえる。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成30年2月28日